

たたかえ! ヒガシヤマン

round 31



©大畠栄里

参 真之吉(さんまのきち)

【必殺技】お前さんにはやらん

秋の季節においしいさんまを七輪で焼いてケムリを撒き散らし、周りをけむたくする。

また、さんまをこれ見よがしに食べるので相手をイライラさせる。機嫌が良いとさんまをちょっぴりおすそ分けしてくれるが、逆に悪いと八つ当たりしてくるぞ。

【考案者】足立由佳

京都橋大学に通っています。趣味は裁縫でマスコットを作ることです。3回生なのでただ今就活がんばっています! 多分!!

ヒガシヤマンの返し技

【必殺! 目玉おやじ】

昨日は新技の訓練をした。目玉顔になり、身長を9cmまで縮めるのだ。昨日は見事、最寄りのコンビニ店員・Sさんの髪の毛潜入に成功。Sさんの髪はフローラルの香りがした。決してストーキングではない。スパイ訓練だ。潜入は完璧、Sさんの家まで行くことができた。彼女の父親らしき人物が庭でさんまを焼いている。彼女に似て、小柄で感じがよさそうだ。しかしながら、ここから先の記憶がない。気がついたら私はすっだらけになって五条大橋の下に倒れていたのだ…

〈ヒガシヤマンの日記より〉

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は眼帯をしている。「これ? いや、あー、あれだよね、俗に言う『めばちこ』ってやつ? 目薬さしてんだけどなかなか治らなくてさ(笑) ヒガシヤマンの目はなぜか泳いでいた。がんばれ、ヒガシヤマン!

文:筒井加寿子

ヒガシ ガシ

VOL.
31

2011 AUTUMN



- 01**・たたかえ！ヒガシヤマン
- 02**・もくじ
- 03**・東山schedule
- 05**・【特集】東山再発見
- 08**・ヒガシヤマQ&A
- 09**・ワークショップななめ読み
- 10**・おも検／季節のイラスト
- 11**・ステージサポートプラン
- 13**・Higashiyama Youth



イラスト

水野里織【大阪デザイン専門学校1回生】

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、
東山の情報もかじってほしい。
ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも
添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。

東山schedule 2011

	10月	11月	12月	
1	土	火	木	⑥
2	日	水	金	⑤
3	月	木	土	
4	火	金	日	
5	水	土	月	
6	木	日	火	④
7	金	月	①	水
8	土	火	木	⑥
9	日	水	金	⑤
10	月	木	土	
11	火	②	金	日
12	水	土	月	
13	木	日	火	④
14	金	月	①	水
15	土	火	木	⑥
16	日	水	金	⑤
17	月	①	木	⑥
18	火	②	金	⑤
19	水	土	月	
20	木	日	火	
21	金	月	①	水
22	土	火	木	⑥
23	日	水	金	
24	月	①	木	⑥
25	火	②	金	⑤
26	水	土	月	
27	木	日	火	
28	金	③	月	①
29	土	火	木	⑥
30	日	水	金	
31	月			土

■は休館日です

① インプロビゼーションワーク 「演劇の表現力を働くきっかけにつなげよう」

ゲームや役者のトレーニング方法を使って、「自分を表現する」方法と一緒に探してみましょう。自己表現を体験しながら、どれが自分にあった方法か、どういうことに注意すべきかをさぐります。同じように、「他者の表現を受け止める」体験もしてみましょう。この場での人とのやりとりが、社会とのつながりが生まれるきっかけになります。

日 時: 10月17日~11月28日(毎週月曜日/全6回)18:00~21:00
*10月31日は休みになります。

参加対象: 現在就職活動中の学生及び、職についていない15歳から概ね34歳までの方。

定 員: 10名

参加費: 無料

ナビゲーター: 二口 大学(俳優)・広田 ゆうみ(俳優)

申 込: 要予約 10月1日(土)より先着順にて受付。



② 木工WS「ペンダントトップをつくろう」

やさしいイメージの木製ペンダントはいかがですか?

デザインするところからはじめ、木片を切り出して作ります。

お店には売っていない、世界にひとつだけの
ペンダントトップです。

日 時: 10月11日~25日(毎週火曜日/全3回)
19:00~21:00

定 員: 15名

参加費: 2,000円

ナビゲーター: 山本 雪乃(木工作家)

申 込: 要予約 先着順にて受付中。



③ステージサポートプラン ボランティア養成講座特別編

ボランティア活動をはじめたい人や活動している人を対象としたワークショップ形式の講座です。

ボランティア活動について考え、想いを整理する機会にしてみませんか？

*活動分野は創造表現活動(公演・発表のサポートやアート)に限っていません。

日 時:10月28日(金)19:00～21:00
10月29日(土)14:00～16:00

参加費:無料



ナビゲーター:岡野 真大(ケービーズ)

申 込:要予約 10月13日(木)より受付。

④電動ろくろWS「電動ろくろ&手びねり」

素材の扱い方から仕上げの工程まで、陶芸のひとつおりを体験していただけます。これから陶芸をはじめたい方におすすめです。



日 時:11月1日～12月13日
(毎週火曜日/全7回)
18:30～20:30

定 員:9名 参加費:9,000円

ナビゲーター:涌波 隆(陶芸作家)

申 込:要予約 先着順にて受付中。

⑤東山コトハジメ「粘土のアニメをつくろう！」

粘土でつくったキャラクターを少しづつ動かして1コマごとに撮影し、仲間と協力して、オリジナルストーリーのクレイアニメを創りましょう。

日 時:11月18日～12月16日(毎週金曜日/全5回)
18:00～19:30

対 象:京都市に在住もしくは在学している
13歳～15歳の中学生年代の方。

定 員:5名 参加費:500円

申 込:要予約 11月1日(火)より先着順にて受付。

⑥ココロからダンスWS #7参加者募集

新しいことに挑戦してみたい人

からだを動かしてみたい人

違う自分に出会いたい人

ダンスで自己表現したい人

いろんな人と出会いたい人

初めて出会った仲間とお互いのことを少しづつ知り合いながら、4ヶ月をかけ、ダンス作品を集団で創作します。修了公演前に、近隣の学校を訪問し、児童・生徒とのダンス交流や創作途中の作品を発表します。

こんなワークをもとに作品創作します。

○外からの刺激(例えば、音や物、環境などの情報)に対し、体を使って反応します。

○腕や背中にさわる・さわられる体感からお互いに影響し合う体の動きを引き出します。

○ワークを通じて、体感する様々なことをこれまで表現します。

○自分のからだの各場所が、どう、どこまで動くのか意識して動かしてみる。

日 時:11月24日(木)～2012年3月22日(木)
11月・12月は毎週木曜日、1月～3月は
毎週月・木曜日 18:00～21:00
(レッスン日程以外に自主練習をする可能性があります)
*説明会／11月17日(木)19:00～20:30
*公演日／3月17日(土)・18日(日)
*公演準備日／3月11日(日)～13日(火)

定 員:15名(先着順)

参 加 費:25,000円(31回のレッスン費用・公演費用一切込)

ナビゲーター:佐藤健太郎(ダンサー)

アシスタントナビゲーター:福井幸代(ダンサー)

申 込 み:10月6日(木)10:00より先着順にて受付。

【②③④⑤の事業について】

対象:京都市に在住もしくは在学・在勤されている13歳から30歳までの方



*いずれの事業も会場・問い合わせは京都市東山青少年活動センターです。TEL 075-541-0619
受付日より、直接来館、または電話・E-mailにて
先着順受付。

東山再発見

特集

現代の芥川龍之介を彷彿とさせる、写真家の中澤さん。「京都という街で、写真を通じて、人と人がつながっていきたい」と、写真をメインにイベントや、ギャラリーでの展示など幅広く活動をされています。

イマ、コレカラを無邪気な笑顔でお話ししてくださいました。



gallery main 代表 中澤 有基さん

●—プロフィールをお願いします。

中澤有基といいます。31歳です。僕を含めた3人で gallery mainというギャラリースペースを運営して、主に写真の展示を行っています。拠点はgallery mainですが、場所にとらわれないイベント活動に、積極的に取り組んでいます。つい最近では、みやこめっせで行われた「アートライブ」というイベントで写真展をさせていただきました。10月には同時代ギャラリーで、イベント企画チームを組んで「KYOTO PHOTO AWARD 2011」というイベントを予定しています。

●—写真をはじめたきっかけを教えてください。

きっかけは学生時の先輩の影響です。それまでは写真に何の興味もありませんでした。先輩に「トイレに行くからカメラを持っていてくれ。待ってる間、勝手に撮っていいよ」とカメラを渡されました。普通の一眼レフのカメラでした。その辺で、適当に撮っただけの何でもない写真だったんですが、撮った写真を先輩がプリントしてくれて、「なかなか面白い写真撮るね」って言ってくれたんですよ。その後、自分でカメラを買いました。それまではカメラなんて持ったこともなかったので、単純に写真が面白いと感じました。あの時、先輩がトイレに行って僕にカメラを預けてくれたから、今の自分があります(笑)

●—gallery mainを始めたのはどうしてですか？

自分たちの写真を発表できる、基地のような場所がほしかったということと、そこからいろんな広がりができればいいなあ、という想いで始めました。写真家って1人で出かけて写真を撮って、展示をして、基本的に単独行動が多い。でも1人だけだと活動の幅に限界があるん

ですよ。そこで視野を広げるために、いろんな人たちと一緒にイベント活動もやってみようということになりました。始めてからもう1年半ぐらい経ちます。

●—どういう時に面白いと感じますか？

やはり自分自身が面白いと思えるかどうかが、判断の基準になってくると思っています。でも面白さは人それぞれなので難しいですね。そこを間違えたら全部が面白くなくなるし、責任を感じことがあります。何か企画を考えても、面白いか面白くないかはやってみないと分からないし、でも判断はやる前に決めないといけませんから。

自分がいいと思えることや、価値があると思えることには気持ちを動かされます。イベントを企画して、人が集まってくれたら、それだけ自分に共感してくれた人がいたということですし、嬉しいですよね。

いい写真を見た時には単純に面白いなあと思います。あとは一度展示などで関わった方が、その後、こちらの予想を超えて、さらに発展していく姿をみることができた時ですかね。

●—gallery mainの特徴を教えてください。

できるだけ出展者と展示方法をなにからなにまで、細かく相談しながら進めるようにしています。なので、それぞれの個展が自分の分身みたいに、愛着がわくんです(笑)。写真選びから始まって、展示方法、点数、タイトル、キャプションはどうしようかなど、そうやって一から一緒につくっていくのがこここの特徴です。なので、個展をやるために1年ぐらい前からミーティングを始めます。若手作家さんをサポートしながら、展示をじっくり創り上げていくというのがポイントですね。

●—なぜそのような創り方をしているのですか？

写真家の中には、自分の想いやテーマを言葉にできないような不器用な人が多いんですよ。どんな写真を撮っているのか、持ってきた写真の中でならどれを使うのか、そんなことを少しずつ話しながら、ミーティングを繰り

返すんです。関係ができていくうちに少しずつ話せるようになって、それを書き留めていくと、本人にも分からなかつたような多くのものが見えてくるんですよね。それを「展示」という方法で、人にみせることのできる作品にまで仕上げていくということを意識しています。

●—何か変化したことはありますか？

以前は3人とも自分で写真を撮って、ここで発表するだけだったのですが、今では写真家さんが「写真を見て下さい」と写真を持ちこむケースが増えてきました。とても嬉しいです。

今まで自分自身も写真をやってきたので、ある程度の知識がありますし、ライトの位置など展示のアドバイスも自分の経験に基づいて行なっています。gallery mainを始めてから、いろんなギャラリーや展示会場に足を運んで勉強したりもしていますし、僕たち自身も、ギャラリーも成長して、発展していくらいいなと思っています。

●—しんどいなあと思うことはありますか？

在廊当番などで常にギャラリーにいなければいけないのが大変ですね。展示をしている作家さんと交代で当番をしているのですが、他の仕事があったり、見たい展示に行く時間が取れなかったり、自由に動ける時間が減ったのが大変といえば大変です。でも、自分たちでやり始めたことですし、多少のしんどさは当然だと思っているので、つらいという感覚はありません。

●—1年半の間で印象的なことはありましたか。

よくも悪くも全てが今につながっていますから、全部が印象に残っています。例えばグループ展をやった仲間の1人が次に個展をやったり、企画をやったりというように、人と人とのつながりと、その



人の変化が見えてくることが面白いと思っています。

●—「KYOTO PHOTO AWARD 2011」について教えて下さい。

「KYOTO PHOTO AWARD 2011」は、実行委員会形式で運営していて、多くの人に企画に関わってもらえる仕組みにしています。写真は全国から募集して(すでに締め切りました)、応募はwebからできるようにしたので、北は青森、南は長崎まで、総勢75名のエントリーがありました。層は幅広いですが、やはり若手の作家さんが多いと思います。エントリーいただいた写真は統一のフォーマットで同時代ギャラリーで展示(10/4~10/9)を行います。来場者に投票していただき、グランプリを決めます。また、京都を中心としたさまざまなギャラリーの方などをレビューに迎えて、レビュー賞なども予定しています。京都を舞台に幅広い人が、ジャンルを超えて刺激し合える場所づくりを目指しています。

●—今後の展望は?

様々なかたちのイベントを企画して、京都にも面白い写真のイベントや写真家がいるんだっていうことを知つてもらいたいです。京都は大阪や東京と違って、このような写真の企画が少ないと思います。具体的なことはまだ構想中なので言えませんが、ネタはいろいろと秘めていますよ(笑)。知つてもらうことで写真家自身も、もちろん僕たち自身も新たな目標ができたり、視野も広がり、みんなが影響し合って発展していくのかなと思っています。まだまだ始めたばかりですが、1年半前と現在とでは、全然違う場所に立っていると思っています。もつと自分の世界が広がれば、来年は今では考えられない場所に立っているかもしれません。可能性を感じています。

●—中澤さん自身はこれからどうなりたいですか?

神様になりたいです(笑)。僕は何かを成し遂げた人が正解になると考へているので、その正解になりたいということです。昔の異端児とされてきた天才たちも、結果が出たから評価されて、正解になるじゃないですか。こ

ういう目に見える結果を成し遂げることが重要だと思うんですよ。目的があってそれを達成するということは、方法、運、環境などいろんな要素が必要だと思うんですが。

●—今度のイベントが楽しみですね。ありがとうございました。

gallery main

展示期間のみの開廊

14:00~20:00 / 平日

13:00~20:00 / 土日祝

基本的に水曜休廊

※イベントにより変動あり

〒600-8028

京都市下京区寺町松原下ル

植松町731-1小林ビル2F3F

TEL 075-344-1893

アクセス 阪急河原町2番10番出口より南へ徒歩9分

京阪清水五条3番出口より西へ徒歩4分

京阪祇園四条1番出口より西南へ徒歩9分

HP <http://gallerymain.jpn.org>



☆KYOTO PHOTO AWARD 2011

日時：10月4日(火)～10月9日(日)

12:00～19:00

※最終日のみ 17:00まで

会場：同時代ギャラリー

●取材 夏原理恵

編集 足立由佳(京都橘大学3回生)

ヒガシヤマ

Q & A

Q「秋にオススメのデートスポットは?」

京都駅

理由：展望台から見える景色がキレイだから。

22歳/女性/ぐっち



ゆーえんち

理由：好きやから。とりあえず好きやから。

15歳/女性/のせ



特にない。

理由：好きな人なら場所はかんけーないからー

21歳/男性



清水のぶたい

理由：もみじや、いろいろの葉が赤や黄色になってきれい！

9歳/女性/かえちゃん

京都、哲学の道。

理由：紅葉を見ながら腕を組み、



たまには哲学的に愛を語らうのもいいのではないか。

23歳/女性/たこ

公園

理由：紅葉がみえる。

9歳/女性/なつこ

学校の屋上

理由：空が高いから。

15歳/女性/あみーご



秋の京都ならではの、
人気デートスポットがあげられました。

work shop

東山フェスタ2011

●概要

今年で8年目を迎えた東山フェスタ。

7月19日～9月10日までの期間、東山青少年活動センターで21プログラムを実施しました。今回はそのなかの2つのプログラムについて、参加した足立さん、谷口さんからの報告です。

ドイツ菓子のマジパン細工体験(8月7日)

「ドイツ生まれの、発酵させるパンを作る」マジパンというお菓子を知らなかった私は、初めそう思っていた。だからマジパンがケーキの上に飾ってある砂糖菓子ということを知った時、勘違いをしていたのかと少しがっかりした。

しかしマジパンを作り出すとまるで粘土遊びをしているようで面白い。特に私は凝り性なので、作ってはつぶし、作ってはつぶしを何度も繰り返した。そのおかげで時間はあっという間に過ぎてしまい、結局私は小さな作品が数個しかできなかった。

でもマジパン作りは最高に楽しかった。材料も教えてもらったので、一度家でマジパン作りに挑戦してみようと思う。

(足立由佳)

マトリョーシカの絵付け体験(8月5日)

初めてのマトリョーシカの絵付けに、私は少しドキドキしながら参加した。アクリル絵の具にさわるのも久しぶりだったので、懐かしいなと思いながら、さっそくマトリョーシカの絵付けをスタートした。みんな思い思いの絵を書いていき、綺麗な模様を付ける人や動物にする人、何かのキャラクターにしている人までいて、その人の個性がマトリョーシカに映りこんだようで見ていて面白かった。

細かい模様や顔などを書くのは難しかったが、失敗しても上から絵の具を塗って修正することもできたので、安心して作業を進める事ができた。ナビゲーターのいちかわさんも、とても気さくな方で楽しく話しながら進めることができた。

この世に一つしかない自分だけのマトリョーシカだと思うとさらに愛着がわき、出来上がったマトリョーシカを3つ並べるだけで、可愛く癒される気持ちになった。もう一度参加してみたいと思うほど、楽しい時間を過ごすことができ、とても楽しいワークショップになった。

(谷口愛理)



おも検、

ヒガシガシボランティアが、ちょっと気になる噂を検証する、おもしろ検証コーナーです。

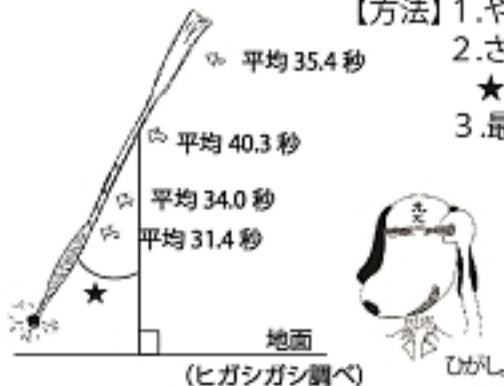
テーマ：線香花火を長持ちさせる方法は？

【方法】1. やじるしの位置を順番にもち、火が消えるまでの時間を測定した。

2. さらに、地面から花火を垂直に持ったところを0度として、

★部分の角度を0、45、90、135度に持った場合の時間を測定した。

3. 最後にあまり差が出なかったので、水に濡らしてみた。



【結果】一番長持ちさせる方法は…

1. 上から2番目のあたりをもつ。

2. 45度の角度でもつ。

3. 火薬ギリギリのところまで水に濡らす。



友だちと勝負する時はぜひおためしあれ！ただし、“線香花火を長持ちさせること”と“楽しむこと”は別物です。夏の終わりを締めくくる、情緒あふれる線香花火を楽しむには、濡らしたりすることなく、素直に気持ちを込めて花火をすることをオススメします。

●検証・編集：ヒガシガシボランティア

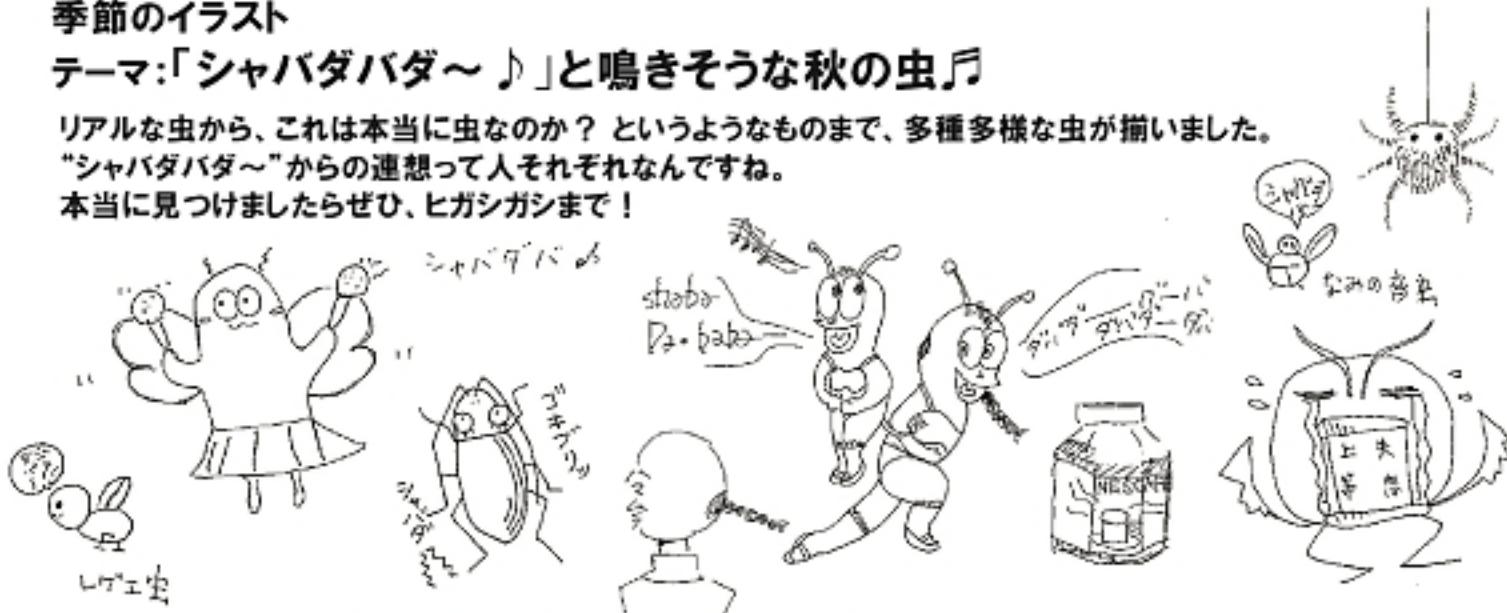
季節のイラスト

テーマ：「シャバダバダ～♪」と鳴きそうな秋の虫

リアルな虫から、これは本当に虫なのか？というようなものまで、多種多様な虫が描きました。

“シャバダバダ～”からの連想って人それぞれなんですね。

本当に見つけましたらぜひ、ヒガシガシまで！



このコーナーでは、テーマにそったイラストを募集し、いくつかの作品を紹介していきます。

●編集：水野里織(大阪デザイナー専門学校1回生)



STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

10月～12月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、いろんな人たちに東山にある創造活動室を利用してほしい。だから次のようなグループの公演を応援しています。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは→東山青少年活動センターへ

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも
ご質問けます。

応募
方法

*応募には まず、担当者にご相談ください。

*企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)
..... 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで

*個別面談 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)

*決定 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)



創活番ボランティア募集中!

「創活番」とはステージサポートプランのお手伝いをするボランティアチームです。この度、新メンバーを募集しています。
何か新しいことを始めてみたいと思っている方におすすめです。
照明や音響、舞台の知識も身につきます。詳しくはお問い合わせください!



■劇団愉快犯

「JAIL」

やって来るは新人看守。そこに待つのはもう1人のベテラン看守と、5人の囚人。6人の原作者による刑務所物語。
劇団愉快犯、第6回公演。

【HP】<http://yukaihan.info>

10/14(金)19:00
15(土)14:00/19:00
16(日)13:00

料金 カンパ制(お気持ち)

○お問合せ...
gekidan@yukaihan.info
080-1687-1313(制作)



■ 佛教学大学 児童教化研究部
「勢至まつり子ども大会」

みんな大好き「忍者」がやってきた!?
忍者学校のお話や修行のお話を、大学生
のお兄さんお姉さんが演劇・人形劇でみ
んなに届けるよ!ぜひ見に来てね♪

11/13(日)13:30

入場無料

○お問合せ…

075-491-9441

(部室直通番号)



劇団やっさん
旗揚げ公演

■ 劇団やっさん
「Turandot」

ある物語の進行と並行して、もうひとつ全
く異なる世界の物語が進行する。二つ
の物語は登場人物の感情でリンクし、そ
こには新しい世界が構築される。

【HP】<http://gkdnyassan.cocolog-nifty.com/blog/>

12/3(土)14:00/19:00
4(日)14:00

前売・当日共500円

○お問合せ…

gekidanyassan

@hotmail.co.jp

090-3429-2929(制作)



■ ピンク地底人
「イエルマ(仮)」

ピンク地底人初の原作もの。

スペインの大作家、ガルシア・ロルカを
ピンク地底人の新訳で挑む!

【HP】<http://www.geocities.jp/pinkundergrounder/>

12/15(木)18:00
16(金)14:00/18:00
17(土)14:00/18:00

前売1,300円 当日1,500円

○お問合せ…

pink_chitejin_123

@yahoo.co.jp

Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回は10月に公演を控える「劇団愉快犯」の代表:玉木さん、演出:本田さんにお話を伺いました。常に笑いが飛び交う背景には、熱い想いがありました。

いろんな大学から集まった学生、社会人も数人います
が、ほとんどが京都大学の学生で構成されています。
メンバーは約30人の団体です。

——グループを始めたきっかけと、名の由来は?

玉木:2009年に大学に入学して三宅君と知り合い、オリジナルの脚本でお芝居をしたいと思い、僕と三宅君の2人で「劇団愉快犯」を立ち上げました。

本田:その2人がグループ名を決めるときに、玉木君は「劇団愉快犯」、三宅君は「劇団サバゼリー」がいいと提案しましたが、玉木君の判断により「劇団愉快犯」に落ち着きました。でもどうして愉快犯なんですか?

玉木:語呂ですよ。バッと覚えられる名前がいいと思ったので。サバゼリーでも覚えられるんですけど…まあでも、ないなと(笑)

——これまでと現在の活動内容を教えてください。

玉木:2009年11月に最初の公演を行って以来、ほぼ2ヶ月毎に公演をしています。一昨年は規模を問わず数えると年6回程行いました。加えて、番外公演を年4回くらいやっています。

本田:今は、10月に行う第6回本公演の稽古をしているところです。

——公演のジャンルはどのようなものですか?

玉木:喜劇です。それ以外はやっていません。もちろんシリアスなシーンもあります。去年10月に東山青少年活動センターでやらせていただいた公演では、ちょっと悲しいシーンもありました。

皆さん:そういうシーンは我慢できなくなるんだよね、みんな。

玉木:もう恥ずかしさに我慢できなくて、何かしたくて仕方なくなります(笑)

本田:そういうシーンを与えられている役者は、「もうこのシーンいやだ」って言ってしまうんですよ(笑)

——東山青少年活動センターの使い心地はどうですか?

本田:場所を貸しているという感じではなくて、こういうことをやりたい人が、やりやすいように配慮してくれているというのをすごく感じます。

玉木:お芝居の練習をする人目線で作られてる感じが使いやすいです。

——劇団の特徴を教えて下さい。

玉木:僕にとってこの活動は趣味です。趣味の時間を過ごすことはもちろん楽しいし、仲間と大笑いして過ごす時間なのでとても楽しいです。

本田:いい意味で遊びに来ているというか…。でも、本当に私は8割方遊びに来ている感覚です。

玉木:声を出して笑えるということが1つ大きな特徴だと思います。いつも演劇公演なのに、ライブイベントみたいに会場が一体となって盛り上がります。終了後のアンケートに「面白かったです」よりも「楽しかったです」と書いてくださる方が多いことが、僕は個人的にとても嬉しいです。

皆さん:あと、上の世代が世代交代を望んでいるので、後輩たちにもチャンスがあることです。



玉木：そう、新入生にはどんどん入ってもらっていたいです。

皆さん：もっと出ししゃばって欲しい！（笑）

玉木：団体としては風通しが良いと思います。それから、他のサークルや劇団とかけもちで活動しているメンバーが多いことも特徴です。例えば車のハンドルなんかの遊びの部分ってありますよね、その部分で演劇をやっているというイメージです。でもその余裕があるから、全力を尽くすことができるのだと思います。趣味だからこそ、全力で楽しめるんですよ。

——あまり気負ってない印象を受けますね。

玉木：そうですね。お芝居の肩を張るような、敷居の高さがあまり好きではないというのも、団体をつくった理由でもあるので、こちら側も気負わずに活動できたらいいと思っています。でも、それが言い訳にならないように、楽しいものを真剣に創れたらいいなと思っています。

——団体として目指しているものはありますか？

本田：プロを目指している劇団の方もたくさんいらっしゃる訳ですが、劇団愉快犯はあくまでも“趣味の劇団”と代表は言っています。それでも、私たち創り手が楽しいと感じるのと同じように、観客のみなさんにも見て、楽しかったと思ってもらえるような劇団になれば、“趣味の劇団”であってもそれは素晴らしいことだろうなと私は思っています。代表、どうでしょうか？

玉木：そうですね、その通りだと思います。胸張って趣味だと言える団体でありたいと思っています。

——今後の活動の告知があればお願ひします。

本田：10月14日から16日まで、東山青少年活動センターの創造活動室で公演をやらせていただきます。今回初めて私が作・演出をやらせて頂きました。劇団愉快犯のいつもの雰囲気で、楽しんでいただけたらいいなと思っています。

玉木：刑務所が舞台で、6人の作家がそれぞれ書いたのを、1本にまとめた喜劇なんですよ。

——今までの公演の中で、1番印象に残っている公演はありますか？

玉木：この劇団は立ち上げてまだ2年しか経っていないのですが、第1回・2回公演で行なったものを今年の4月に再演しました。集客もそうですし、お芝居のクオリティも、第1回・2回公演とは比べものにならないくらい良くなっていました。毎回着実に昇ってきていましたことを思ったら、1番新しい最後に行なった公演が1番印象に残っているし、1番面白かったなと思っています。

——では、次回の公演がとても楽しみですね。今日はありがとうございました。



☆ 剧团愉快犯

<http://yukaihan.info/top.html>

取材/編集：谷口 愛理(京都橘大学3回生)
鈴木 けい(京都女子大学2回生)

